

【小学生の部】 未来賞

「未来のロールモデル」

ランネットグローバルスクール 5年 おだ たいよう 小田 泰陽

僕は、小学校二年生の時に、カナダ人の先生から環境団体のビデオを見せてもらった。そこには、ものが大量に作られて大量に捨てられる話や、気候変動の話があった。家族はそのころ、まだそのことを知らなかった。僕はこれはまずいと思った。だから両親や、祖父母にも見せた。

アメリカとヨーロッパに、家族と環境問題の調査をしに行った。サンフランシスコでは、生ゴミをコンポストにしていた。ベルリンでは、ビニール袋を持っている人は全く見かけなかった。

日本に帰って、フライデー・フォー・フューチャーのマーチに三回参加して、テレビにも出た。三宮の駅前では、石炭火力発電をやめようとうったえた。「気候戦士」という映画の上映会で、集まった人に、海洋プラスチック問題のクイズをした。学校では、再生可能エネルギーの研究をして発表した。

それらの活動を通じて、いろんなことを知り、伝えたけど、日本ではまだまだ、気候変動の問題を知らない人の方が、比べられないぐらい多い。京都大学の中北英一教授が言うように、九州の水害は、地球温暖化の影響だ。あの水害を見て僕はこう思った。人々は、なぜこの水害が起きてるかの本当の原因を知らない。だけど、それは人々のせいじゃない。都合の悪い情報は隠されているからだ。企業が都合の悪いことを隠してるからだろう。なぜならば、儲かるからだ。

社会の仕組みをガラッと変えないといけないと思う。仕組みを変えるにはロールモデルがいる。ちゃんとしたロールモデルは、事実をみんなに伝えて、どうやって解決できるかを見せてくれる企業だ。みんながサポートしてその企業が持続可能になれば、他の企業もその企業を真似する。そのために僕ができることは、僕がどの企業をサポートするべきかを発信することだ。例えば、今あるたくさんのマークを一つにまとめて、総合的なレーティングにできる。それがあれば、人がどれを買うべきかすぐわかる。システムを変えるきっかけになる。もっと身近なところでは、食べ残しをしない、無駄なものを買わない、レジ袋をもらわない、水筒を持ち歩く、生ゴミはコンポストにする、洋服は中古を買う、なるべく電車に乗る、食事からお肉を減らす。僕がその行動をすることによって僕がロールモデルになれる。

気候変動による悲劇を、これ以上起こさないため、一人一人の力が小さくてもその一步一步をあきらめないように励まし続けられる存在に僕はなりたい。